

お話のせかいに入って音読げきをしよう
「お手紙」
アーノルド・ローベル作

めあて

音読げきはつびよう会にむけて学しゅう計画を立てよう。

がまくん
(かえるくんが)
が

かえるくんから お手紙を もらう
(がまくんに手紙を書く)
ことよって

元気
(二人ともしあわせな気分)
になる おはなし

学しゅうすること

一	学しゅう計画を立てる
二	場めんを分ける。
三	【一の場めん】 がまくんの気もちを考える。
四	【二の場めん】 家に帰ったかえるくんの気もちを考える。
五	【三の場めん前半】 家に帰ったかえるくんの気もちを考える。
六	【三の場めん後半】 お手紙をまつがまくんとかえるくんの気もちを考える。
七	【四の場めん】 お手紙をもらった がまくんの気もちを 考える。
八	音読げきはつびよう会にむけての話し合いとれんしゅうをする。
九・十	「なりきり音読げきはつびよう会」を ひらく。
十一	「お手紙」を読んで、おもしろかったところや気に入ったところなどを出し合う。
十二	出てきた人ぶつに お手紙を書く。

【分かったこと・できたこと】
・音読げきはつびよう会にむけて、がまくんとかえるくんの気もちを考えていくことが分かった。

【1 / 11時間目 指導路案】 使用するワークシート(話のあらすじ、学しゅう計画ひょう)

活動のねらい
音読発表会に向けて学習計画を立てることで、今後の学習の見通しをもたせるようにする。

1 題名の手紙について知っていることや手紙をもらった経験を出し合う。

- 題名から想像できることや手紙について知っていることなどを出し合わせる。
- ※ 実際の手紙を見せ、実生活の中での経験等を思い出しやすいようにします。

2 「お手紙」を聞き、話の大体を捉えさせる。

- 教科書を用いた教師の範読を聞いて登場人物を確認させ、あらすじの大体を捉えさせる。
- ※ 誰が(中心人物)、どんなことよって(事件、きっかけ)、どうなったかという大まかな話の流れをワークシートに書かせることで、個々の読みの実態を把握することができま。
- ※ この時点では、「誰が」にあたる部分を、かえるくん、かたつむりくんとする児童もいると思いますが、話の流れに合っていればよいこととします。

3 本時のめあてを知る。

- 音読発表会に向けての学習計画を立てることを確認する。

4 学習計画を立て、できあがった学習計画をワークシートに書きこむ。

- 音読発表会をするためには、どんな準備が必要かを考えさせる。
- ※ 児童に学習カードを提示する場合は、一時間目と九時間目以降の計画のみを提示し、単元の二、八時間目の部分は、白い広用紙で覆っておきます。そこで、どんな学習が必要かを、今までの児童の学習経験から考えさせます。「気持ちを考える」「音読の練習」など具体的な学習内容が出てきたら、それが何時間目に必要かを指導者が意図的に位置付けていきます。
- ※ 学習計画を児童が考えながら立てることで、見通しをもたせることができます。また、毎時間の読みの目的がはっきりしてきます。
- ※ できあがった学習計画表は、教室に掲示しておき、全体の中のどの部分を学習しているのかをいつでも確認できるようにしておきます。

評価 音読劇を成功させるために、単元計画について進んで話し合おうとしている。

(アー1)

5 本時の学習について振り返り、次時の学習について見通しをもつ。

- 音読劇をするという目的をもち、読み進めていくことをワークシートの振り返り欄で確認させる。
- 次時は、場面分けを確認する。

お話のせかいに入って音読げきをしよう
 「お手紙」
 アーノルド・ローベル作

めあて
 お話を四つの場めに分けよう。

- ・とうじょう人ぶつ
- ・がまがえるくん
- ・かえるくん
- ・かたつむりくん

場めん分けのしかた

- ・時間
 - ・場しよ
 - ・行どう
- を文しよから考える。

- ・小見出しのつけかた
- ・○○○ながまくん(かえるくん、かたつむりくん)
- ・○○○ながまくん(かえるくん、かたつむりくん)
- ・○○○ながまくん(かえるくん、かたつむりくん)

ここでは光村図書の教科書に合わせて
 ページを入れていきます。

場めん	ページ・ぎよう	小見出し(場めんの名前)
一	p.4 1.1 p.7 1.4	「お手紙をまっっているさびしそうな がまくん」
二	p.7 1.5 p.8 1.11	「いそいでがまくんにお手紙を書く かえるくん」
三	p.9 1.1 p.14 1.8	「がまくんをはげますかえるくんと お手紙をまつがまくん」
四	p.14 1.9 p.19 1.3	「お手紙がとどくのをまつがまくんと かえるくん」

分かったこと・できたこと

- ・場しよがかわつたら、場めんもかわるといふことが分かつた。
- ・小見出しをつけるときは、「○○○くん」といふ書き方にそるえると考えやすいといふことが分かつた。

【2 / 12時間目 指導路案】 使用するワークシート(場めん分け)活動のねらい

時間や場所、登場人物の行動などの視点をもつて全文を読み、場面分けができるようにする。

1 本時のめあてを知る。

- 学級に掲示している学習計画で本時の学習を確認させる。

2 お話を四つの場面に分ける。

- ※(1) 一人で考える。

まず一人で考えさせます。机間指導をしながら、視点をもつて場面分けをしている児童がいたら、みんなの前でどのようにして分けたかを発表させます。

- ※ 分け方が分からないでいる場合は、次のいずれかをヒントにして考えさせます。
- ・ 時間の変化
- ・ 場所の変化
- ・ 登場人物の行動の変化

※(2) 全体で考える。
 時間や場所の変化に目を向けさせ、次の四つの場面に分けさせます。

【一の場面】	がまくんは、げんかんの前に……「ぼく、……しなくちやいけないことが、あるんだ。」
【二の場面】	それから、……がまくんの家へもどりました。
【三の場面】	長いことまっっていました。
【四の場面】	……とてもよろこびました。

3 それぞれの場面に小見出しを付ける。

- 誰が何をしている場面なのかを考えさせる。
- 書き方に統一感があるようにする。

【発問】一の場面は、誰が何をしている場面でしょう。
 ・「○○○ながまくん」といふ言い方でいふようになるでしょう。

評価 場所の変化に気付き、場面を分けている。
 (イー1)

4 本時の学習を振り返り、次時の学習について見通しをもつ。

- 場面分けをするときは、視点をもつて読むとよいといふことをワークシートの振り返り欄で確認させる。

- 次時は、一の場面を読んでいくことを確認する。

お話のせかいに入って音読げきをしよう

「お手紙」 アーノルド・ローベル作

めあて

やくわり読みをしながら、がまくんとかえるくんの気持ちを考えよう。

「二の場面」 本文揭示

がまくんは、げんかんの前に すわっていました。

※本文書き込みの例(児童の取り上げた文章の横に、発言内容を書きこんでいきます。)

○ 「だつて、ぼく、お手紙もらったことあるのかな。」

○ 「ぼんとうに一度もないのかな。」

○ 「いちどもかい。」

○ 「ぼくのこと、みんななんともおもってないのかな。」

○ 「だれも、ぼくに、お手紙なんかくれたことがないんだ。…そのためのなのさ。」

「ぼく、もう 家へ帰らなくちゃ、がまくん。しなくちゃいけないことが、あるんだ。」

がまくん
かえるくん } かなしい気分

【分かったこと・できたこと】

- ・ がまくんもかえるくんと同じように、かなしい気持ちになってることが分かった。
- ・ 気もちは、会話文にたくさんあることが分かった。

【3 / 11時間目 指導略案】 使用するワークシート(二の場めん) 活動のねらい

登場人物の会話や行動から場面の様子を想像し、音読に生かすことができるようにする。

1 本時のめあてを知る。

- 学級に揭示している学習計画で、本時の学習内容を確認させる。

2 一の場面を読み、がまくんとかえるくんの会話文を確認する。(個人で↓全体で)

- 会話文の上に赤(がまくん)と緑(かえるくん)で○印を付けながら確認させる。
- ※ まず一人で考えさせます。次に全体で本文に沿って順序よく誰の会話文かを答えさせます。教師は、黒板に掲示している本文に色分けをして○印を付けていきます。

評価 誰の言った会話文かを理解し、場面の様子を想像しながら読んでいる。(ウー1)

3 登場人物の気持ち分かる文章をワークシートに抜き書き、その時の気持ちを考えさせる。

- 登場人物の気持ちを会話や行動から考えさせる。

【個人】

- ※ 人物の言葉で思ったことや感じたことを書かせます。がまくん、かえるくんのどちら側から考えてもよいということを伝えます。
- ※ 気持ちをうまく探せない児童には、会話文を指定して書き抜きをさせ、そこから気持ちを考えさせたり、表情を絵で描かせたりします。

【少人数】

- ※ 自分の考えを全児童が表現する、伝える場の保障として、隣同士やグループで交流をさせます。そこで、気付かなかった友達への考えに触れさせるといふねらいもあります。

【全体】

- ※ 考えやすいように、赤と緑で○印を付けた会話文を基に、がまくんの様子とかえるくんの様子を分けて考えていきます。その上で、二人の様子をまとめていきます。
- ・ がまくん・・・お手紙をもらったことがなくて、悲しんでいる。
- ・ かえるくん・・・がまくんの話を聞き、なんとかがまくんを元気づけようとしている。

4 読み取ったことを基に、一の場面を音読する。

- 役割を決め、それぞれの人物になりきって音読をさせる。
- ※ 人物の気持ちや表情を顔マーク(△)を加えながら練習させます。

評価 がまくんのさびしい気持ちを読み取っている。

(イー1)

5 本時の学習を振り返り、次時の学習について見通しをもつ。

- がまくんとかえるくんの悲しい気持ちを読み取り、気持ちは会話文にたくさんあるというワークシート欄の振り返り欄で確認させる。
- 次時は、二の場面を読んでいくことを確認する。

お話のせかいに入って音読げきをしよう
「お手紙」 アーノルド・ローベル作

めあて

やくわり読みをしながら、かえるくんとかたつむりくんの気もちを考えよう。

【二の場面】 本文揭示

かえるくんは、大いそぎで 家へ帰りました。

※本文書き込みの例(児童の取り上げた文章の横に、発言内容を書きこんでいきます。)

・かえるくんは、家からとび出しました。

いそがないと。

よし、かえるくんのためだ。がんばるぞ。

○ 「すぐやるぜ。」

それから、かえるくんは、がまくんの家へもどりました。

かえるくん・・・はやくがまくんを元気にしてあげたい。

いそいでいる。

「大いそぎで」「とび出しました。」

かたつむりくん・・・やる気がある。

【分かったこと・できたこと】

・がまくんのことを思っ手紙を書くかえるくんは、やさしいということが分かった。

【4 / 11時間目 指導略案】 使用するワークシート(二の場めん) 活動のねらい

登場人物の会話や行動から場面の様子を想像し、音読に生かすことができるようにする。

1 本時のめあてを知る。

○ 学級に掲示している学習計画で、本時の学習内容を確認させる。

2 二の場面を読み、かえるくんとかたつむりくんの会話文を確認する。(個人で↓全体で)

○ 会話文の上に緑(かえる)と青(かたつむり)で○を付けながら確認させる。

※ ここでは、あまり時間をかけすぎないように留意して、一人で考えさせたのち、全体で本文に沿って誰の会話文かを確認していきます。

評価 主語のない文章があることに気付かせ、場面の様子を想像しながら読んでいる。

(ウー1)

3 登場人物の気持ちに分かる文章をワークシートに抜き書き、その時の気持ちを考えさせる。

○ 登場人物の気持ちを会話や行動から考えさせる。

※ 【個人】↓【少数数】↓【全体】の流れは前時と同じです。

※ 動作化をさせると分かりやすいです。

※ 主語がない文が続いていることに気付かせます。主語のある文章と主語のない文章の2種類の文章を音読させ、違いに気付かせます。

※ 主語のない文章の方が、テンポが良く、急いでいる様子を表している。

※ 人物の様子については、行動や会話から次のようにまとめます。

- ・かえるくん・・・早くがまくんを元気付けようと、急いでいる。
- ・かたつむりくん・・・仕事を任されて、やる気に満ちている。

4 読み取ったことを基に、二の場面を音読する。

○ 役割を決めて、それぞれの人物になりきって音読をさせる。

※ 人物の気持ちや表情を顔マーク(ハ)を加えながら練習させます。

評価 かえるくんのがまくんを思う気持ちを読み取っている。

(イー1)

5 本時の学習を振り返り、次時の学習について見通しをもつ。

○ がまくんを早く元気付けようと思い、急いでいるかえるくんの様子と、やる気はあるけどゆっくり行動しているかたつむりくんの様子を読み取り、対照的な様子であることをワークシートの振り返り欄で確認させる。

○ 次時は、三の場面を読んでいくことを確認する。

お話のせかいに入って音読げきをしよう

「お手紙」 アーノルド・ローベル作

めあて

やくわり読みをしながら、がまくんとかえるくん
の気持ちを考えよう。

【三の場面前半】本文掲示

がまくんは、ベッドで お昼ねをしていました。

※本文書き込みの例(児童の取り上げた文章の横に、発言内容を書きこんでいきます。)

かえるくん、なにいつてんだよ。

「いやだよ。」

どうにかして、がまくんをおこさなきゃ。

「ひよつとして、だれかが、きみにお手紙を くれる
かもしれないだろう。」

かたつむりくんは、まだ やって来ません。

がまくん・・・あきらめている。

「いやだよ。」「そんなこと、あるものかい。」

かえるくん・・・元気付けたい。

【分かったこと・できたこと】

- ・ がまくんのことを一生けんめい元気づけるかえるくんは
とてもやさしいということが分かった。
- ・ くりかえし出てきている文しよは、読み方をかえて読
むことが分かった。

【5/11時間目 指導略案】 使用するワークシート(三の場めん前半)
活動のねらい

登場人物の会話や行動から場面の様子を想像し、音読に生かすことができるようにする。

1 本時のめあてを知る。

○ 学級に掲示している学習計画で本時の学習内容を確認させる。

2 三の場面前半を読み、かえるくんとかたつむりくんの会話を確認する。(個人で↓全体で)

○ 会話文の上に緑(かえる)と赤(がまくん)で○を付けながら確認させる。

※ 役割読みをさせながら、誰が言った言葉かを確認させます。児童が十分理解しているよ
うであれば、誰が言った言葉か印を付けさせる作業は、必要ありません。

評価 誰の言った会話文かを理解し、場面の様子を想像しながら読んでいる。(ウー1)

3 登場人物の気持ち分かる文章をワークシートに抜き書き、その時の気持ちを考えさせる。

○ 登場人物の気持ちを会話や行動から考えさせる。

※ 【個人】↓【少数数】↓【全体】の流れは前時と同じです。

※ 繰り返し出てくる文章は、動作化などを通して比較させ、気持ちの高まりがあること
に気付かせます。そして、読み方に変化をつけさせます。

・「がまくん。」

・がまくんは、まだからゆうびんうけを見ました。(まだからのぞきました。)

・かたつむりくんは、まだやってきません。

※ 人物の様子については、行動や会話から次のようにまとめます。

・がまくん・・・相変わらず、落ち込んでいる。

・かえるくん・・・早くがまくんを元気付けたい。

4 読み取ったことを基に、二の場面を音読する。

○ 役割を決めて、それぞれの人物になりきって音読をさせる。

※ 前時に学習したこと(気持ちをこめて・動作化)を踏まえて音読することを確認します。

※ 人物の気持ちや表情を顔マーク(ハニ)を加えながら練習させます。

評価 二人の気持ちの違いを読み取っている。

(イー1)

5 本時の学習を振り返り、次時の学習について見通しをもつ。

○ 繰り返し出てきている言葉や文章は、気持ちの変化に合わせて読み方を変えて読むこと
とや、役になりきって簡単な動作を入れながら読むと、場面の様子がよく分かることをワ
ークシートで確認させる。

○ 次時は、三の場面後半を読んでいくことを確認する。

お話のせかいに入って音読げきをしよう

「お手紙」

アーノルド・ローベル作

めあて

やくわり読みをしながら、がまくんとかえるくんの
気持ちを考えよう。

【三の場面後半】 本文掲示

「かえるくん、どうして、きみ、ずっと まどの外を見ているの。」

※本文書き込みの例(児童の取り上げた文章の横に、発言内容を
書きこんでいきます。)

○ 「なにをどつぜん言ってるんだよ。」

○ 「でも、来やしないよ。」

○ がまくん、よろこんでくれて、本当によかった。

○ 「ああ。」

早く読みたいなあ。かえるくん、やさしいな。

・ ふたりとも、とても しあわせな気持ちで、そこにすわっていました。

長いこと まっていました。

がまくん・・・あきらめ↓しあわせ

「きみが。」「ああ。」「とても いいお手紙だ。」

かえるくん・・・うれしい・しあわせ

【分かったこと・できたこと】

・ がまくんの気持ちが変わるようすが分かった。
・ 「ああ」の読み方は、みじかいけど気持ちこめて音読しなければいけないということが分かった。

【6 / 11時間目 指導略案】 使用するワークシート(三の場面後半)
活動のねらい

登場人物の会話や行動から場面の様子を想像し、音読に生かすことができるようにする。

1 本時のめあてを知る。

○ 学級に掲示している学習計画で本時の学習内容を確認させる。
※ これまでの振り返りで、会話文、行動、挿絵から場面の様子を想像することを確認させます。

2 三の場面後半の役割読みをすることで、だれの会話文かを確認する。

○ 会話文の上に赤(がまくん)と緑(かえる)で○を付けながら確認させる。
※ 児童が誰の会話文か理解している場合は、役割読みをすることで確認します。

評価 誰の言った会話文かを理解しながら読んでいます。

(ウー1)

3 登場人物の気持ち分かる文章をワークシートに抜き書き、その時の気持ちを考えさせる。

○ 登場人物の気持ちを会話や行動から考えさせる。

○ 【個人】↓【少数】↓【全体】の流れは前時と同じです。

※ がまくんの気持ちが変わっていく様子を、文章や挿絵(を一の場面と比較)から確認していきます。

「でも、来やしないよ。」 ↓ 「きみが。」「ああ。」「とてもいいお手紙だ。」

※ 人物の様子については、行動や会話から次のようにまとめます。

・ がまくん・・・お手紙が届くことを知り、幸せな気持ちになった。

・ かえるくん・・・がまくんが幸せな気持ちになってくれて同じように幸せ。嬉しい。

4 読み取ったことを基に、三の場面後半を音読する。

○ 役割を決めて、それぞれの人物になりきって音読をさせる。

※ 前時に学習したこと(気持ちをこめて・動作化)を踏まえて音読することを確認させます。

※ 人物の気持ち分かる部分には、顔マーク(ハ)等を加えながら練習させます。

※ 上手に音読している児童を教師が紹介します。そして、どの文章表現からそのような工夫しようと考えたのかを引き出し、人物の気持ちや場面の様子への理解を深めさせます。

評価 二人の心が通い合っていく様子を読み取っている。

(イー1)

5 本時の学習を振り返り、次時の学習について見通しをもつ。

○ 役になりきったり簡単な動作を入れたりしながら読むと、場面の様子がよくわかることをワークシートの振り返りで確認させる。

○ 次時は、四の場面を読んでいくことを確認する。

お話のせかいに入って音読げきをしよう

「お手紙」

アーノルド・ローベル作

めあて

やくわり読みをしながら、がまくんとかえるくんの
気持ちを考えよう。

【四の場面】 本文揭示

四日たって、……

※本文書き込みの例(児童の取り上げた文章の横に、発言内容を
書きこんでいきます。)

早く読みたいな。

はじめてのお手紙だ。うれしいな。

そして、かえるくんからのお手紙を、がまくんに

わたしました。

……とても よろこびました。

がまくん
かえるくん } しあわせ

【分かったこと・できたこと】

・ さし絵からも場めんのようすをくらべることができると
が分かった。

【挿絵】

玄関の前に座っている4の場面の二人

【挿絵】

玄関の前に座っている1の場面の二人

【7 / 11時間目 指導略案】 使用するワークシート(四の場めん)活動のねらい

登場人物の会話や行動から場面の様子を想像し、音読に生かすことができるようにする。

1 本時のめあてを知る。

- 学級に揭示している学習計画で本時の学習内容を確認させる。
- ※ これまでの振り返りで、会話文、行動、挿絵から場面の様子を想像することを確認させます。

2 四の場面の役割読みをすることで、だれの会話文かを確認する。

- 会話文の上に赤(がまくん)と緑(かえる)で○を付けながら確認させる。
- ※ 児童が誰の会話文か理解している場合は、役割読みをすることで確認します。

評価 主語のない文章があることに気付かせ、場面の様子を想像しながら読んでいる。

(ウー1)

3 登場人物の気持ち分かる文章をワークシートに抜き書き、その時の気持ちを考えさせます。

- 登場人物の気持ちを会話や行動から考えさせる。
- ※ 【個人】↓【隣同士】↓【全体】の流れは前時と同じです。
- ※ 一の場面の挿絵と比較させ、表情や手の動きが違うことに気付かせます。
- ※ 人物の様子については、行動や会話から次のようにまとめます。
 - ・ がまくん
 - ・ かえるくん

幸せな気持ち

4 読み取ったことを基に、四の場面を音読する。

- 読み取ったことを生かしながら音読をさせる。
- ※ 人物の気持ち分かる部分には、顔マーク(☺)等を加えながら練習させます。

評価 幸せな二人の様子を読み取っている。

(イー1)

5 本時の学習を振り返り、次時の学習について見通しをもつ。

- がまくんとかえるくんの様子を、役になりきり簡単な動作を入れながら読むと、場面の様子がよく分かることをワークシートの振り返り欄で確認させる。
- 次時は、音読発表会に向けての役割決めと台本作り、練習をすることを確認する。

お話のせかいに入って音読げきをしよう
「お手紙」 アーノルド・ローベル作

めあて

「なりきり音読げきはつぴょう会」の練習をしよう。

- 【はつぴょうのしかた】
- ・四人一組で読む。
 - ・はじめからおわりまで読む。

1 場面をきめる。

- ・一の場めん ()
- ・二の場めん ()
- ・三の場めん前半 ()
- ・三の場めん後半 ()
- ・四の場めん ()

5分

2 だい本作りをする。

- ・かおマーク
 - ・やじるし
- 3 グループでれんしゅうをする。
- ・よいところ
 - ・アドバイス

5分

25分

【分かったこと・できたこと】

- ・がまくんがよろこんでいくところを、だんだん大きな声で読むことができた。
- ・かえるくんのくりかえしのどう作を、三回目は一番大きくすることができた。
- ・がまくんのあきらめているようすが分かるように、しょんぼりした顔で読んだ。

【8/11時間目 指導略案】

使用するワークシート(一〜四の場めん・音読げきはつぴょう会のすすめ方)

※本文を印刷したプリントを配り、台本とさせます。

活動のねらい

読み取ったことを基に、工夫しながら音読劇の練習ができるようにする。

1 本時のめあてを知る。

- 学級に掲示している学習計画で本時の学習内容を確認させる。
- ※ これまで読み取ったことを基に、自分なりに工夫をしながら音読することを確認させます。
- ※ 本時の作業は、黒板下にある時間を目安にしながら進めていくことを確認させます。

2 「なりきり音読劇発表会」の進め方を知る。

- 「なりきり音読劇発表会」の進め方を知らせる。
- ※ 全文を通して音読劇をすること、動作も入れることを確認させます。

3 グループで読む場面を決める。

- 話合いによって読む場面を決めさせる。
- ※ 四人一組でグループを作らせます。場面により読む量に片寄りがあるので、2、4場面を組み合わせたリ、3の場面を2つに分けたりするとよいでしょう。

評価 音読劇に向けて進んで話し合おうとしている。

(ア-2)

4 台本作りをする。

- これまで学習してきた一〜四の場面までのワークシートを基に、自分の担当する場面の書き込み(顔マークや短い言葉など)をさせ、台本を完成させる。
- ※ 「ゆっくり」や「うれしそうに」などの短い言葉や一目でわかる顔マークなどで書き込みをさせます。
- ※ 台本は、書き込みができるくらいに行間を空けて本文を打ったものを配布します。

5 グループで練習をする。

- 場面の様子を考えながら練習をさせる。
- ※ 友達にアドバイスをしたりしながら、よりよい音読を目指していくようにします。

評価 読み取ったことを基に音読劇の台本作りをしたり練習をしたりしている。(イ-2)

6 本時の学習を振り返り、次時の学習について見通しをもつ。

- 音読劇では、相手意識をもつことが大切だということをワークシートの振り返り欄で確認させる。
- 次時は、「なりきり音読劇発表会」を開くことを確認する。

お話のせかいに入って音読げきをしよう

「お手紙」

アーノルド・ローベル作

めあて

「お手紙」の世界に入って、「なりきり音読げき
はっぴよう会」を開こう。

【はっぴよう会のながれ】

① 音読げきのはっぴよう(10分)

② ほめほめカードに書く(2分)

③ ほめほめタイム (3分)

【やくそく】

★はっぴようするとき

- ・ 友だちに聞こえるこえで
- ・ 気持ちよこめて(なりきって)
- ・ ひょうじようゆたかに

★聞くとき

- ・ はっぴようしゃのほうを見て
- ・ じようずな読みかたをさがしながら

★ほめほめタイム

- ・ よかったところ
- ・ アドバイス

【分かったこと・できたこと】

記入例

- ・ がまくんの気持ちを考えながら読むことができた。
- ・ 会話文のところは、あいてを見ながら音読することができた。
- ・ かたつむりくんの会話文は少なかったけど、ゆっくりしたうごき方をくふうした。

【9, 10/11時間目 指導略案】

使用するワークシート(音読げきはっぴよう会のすすめ方・ほめほめカード)

※ クラスの人数によっては、一時間で終わる場合もあります。活動のねらい

読み取ったことを生かしながら、音読劇をしたり友達の発表を聞いたりできるようにする。

1 本時のめあてを知る。

○ 登場人物になりきり気持ちをこめて音読することを確認させる。

2 発表会の流れと約束事を確認する。

○ グループ終わるごとに、「ほめほめタイム」を設けることを確認する。

※ 発表を聞きながら、友達の良かった点などをワークシートに記録することを知らせる。

※ 声の大きさばかりに偏る評価ではなく、心情に即した抑揚のある読み方ができているかという点に目を向けて評価をさせるようにします。

3 発表会を開く。

○ 「発表」→「ほめほめカードに良かったところを記入」→「ほめほめタイム(感想交流)」という流れで進めていくことを確認させる。

※ 全員参加型の発表会にするために、感想を述べる順番も決めておくという方法もあります。よかった点、アドバイスするべき点などが見付けやすいように、見る観点を板書し、児童が持つ評価のカード「ほめほめカード」にも同じものを書いておきます。

※ 「ほめほめカード」の記入は、前時に話合いで決めた自分の読む場面についてのみさせ、作業が複雑にならないようにします。そうすることで、全ての児童が評価してもらうことができます。

※ 「ほめほめタイム」では、児童のよい点を教師からも発表し、その点を他の児童にも意識させながら発表させたり聞かせたりするようにします。

評価 進んで音読劇をしたり、友達の音読のよいところを探しながら聞いたりしている。

(ア-2)

4 本時の学習での振り返りをする。

※ 相手を意識し、気持ちよこめて音読することができたか、表情を変えたり動作を付けたりしながら音読することができたか、また、友だちの工夫した読み方を見つけたかなどをワークシートの振り返り欄で確認します。

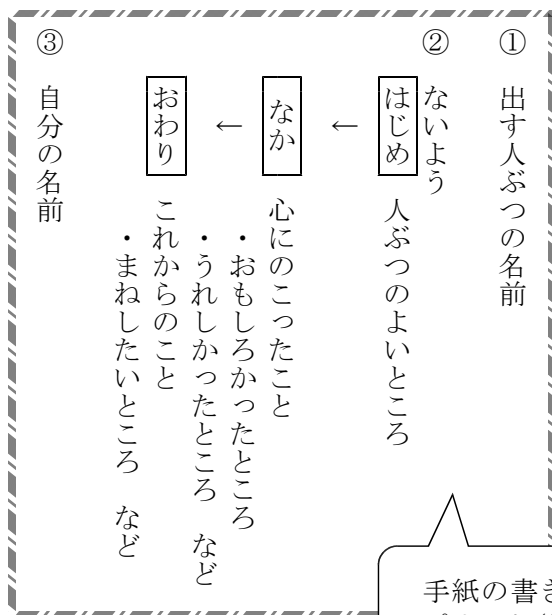
お話のせかいに入って音読げきをしよう
「お手紙」
アーノルドローベル作

めあて

「お手紙」の中の人ぶつにぼかぼか手紙を書こう。

- 1 お手紙を書く人ぶつをきめる。
・がまくん
・かえるくん
・かたつむりくん

- 2 お手紙を書く。
【書き方】



手紙の書き方は、SAGAで
るプリント(学習プリント)の「友
だちへの手紙」を使って指導す
ると、手紙の書き方が身につ
きます。

【分かったこと・できたこと】

- ・ あい手の名前の上に、「ぼかぼかことば」をつけるよ
いとということが分かった。
- ・ 「ぼかぼかことば」には、どういふものがあるのかが
分かった。

【11/11時間目 指導略案】 使用するワークシート(SAGAでるプリント「友だちへの手紙」)
活動のねらい

相手の名前、自分の名前、主語と述語を正しく記述した簡単な手紙を書くことができる。

- 1 本時のめあてを知る。
○ 友達に簡単な手紙を書くことを知らせる。
※ 「お手紙」の内容を思い出させ、お手紙の中の人物を選び、最も心に残ったところにつ
いて、手紙を書くことを知らせます。

- 2 手紙の形式を知る。
○ 手紙の簡単な形式を知らせる。

- ・ はじめに相手の名前、最後に自分の名前を書く。
- ・ 手紙の内容は、「はじめ」「なか」「おわり」の三部構成で書く。
- ・ 友達の名前の上に、人柄を表す言葉を付ける。(例:「いつもやさしいけい子さん」)
- ・ 心にとったことは、いつ、どこで、どうしたところか、それについてどう思ったか、
などを書く。
- ・ 「ぼかぼか言葉」を入れる。(例:「がんばっているね」「ありがとう」など、言われたら
嬉しくなるような言葉)

- 3 書く相手と題材を決める。

- 手紙を書く相手と内容を考えさせる。
- ※ SAGAでるプリント(学習プリント)の「友だちへの手紙(書くことメモ)」を使って指
導すると、書くことをまとめさせることもできます。

- 4 「ぼかぼかお手紙」を書く。

- 一斉指導で「ぼかぼかお手紙」を書かせる。(用紙は、SAGAでるプリントの罫線用紙
をご活用ください。)
- ※ 「相手の名前」「相手の良いところ」「心に残ったところ」「これからのこと」「自分の名
前」と区切って書かせます。
- ※ 一斉指導で書かせることで、ある程度進度を同じにすることができます。また、個々に
指導していき、待たせる時間が長くなるという難点も少なくなります。

評価 主語や述語、「○○さんへ」という助詞を正しく使っている。(ウー1)

- 5 本時の振り返りをする。
※ 書き方のきまりを守って書くことができたか、相手が嬉しくなるような手紙が書けたか
をワークシートの振り返り欄で確認させる。

◇「お手紙」は、どんな お話でしたか。

の中に 入る ことばを 考えて 書きましょう。

(だれ)

が

(どんなこと)

によって(ことば)

(どうなる)

になる お話

◇ きょうの 学しゅうを ふりかえりましょう。

◎できた ○だいたいできた

△もう少し

学しゅう計画ひょうを作るために、すすんで考えることが できましたか。

◎

○

△

【分かったこと・できたこと】

二年)

十二	十一	十・九	八	七	六	五	四	三	二	一	月日
/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
出てきた人ぶつに お手紙を書く。	「お手紙」を読んで、 おもしろかったことや 気に入ったところなどを 出し合う。	「なりきり音読げきはつ びよう会」をひらく。								学しゅう計画を立てる。	学しゅうすること

二年()

めあて

お話を四つの場めんに分けよう。

◇ 出てきた人ぶつは、だれでしょう。

・	・	・
---	---	---

場めん分けをするときは、

- ・ 時間
- ・ 場しよ
- ・ 人ぶつのごうどう

にちゆういして読むとよいですよ。



◇ お話を 四つの場めんに分けましょう。

場めん	ページ・行	場しよ	場めんの名前(小見出し)
四	p () l () }		
三	p () l () }		
二	p () l () }		
一	p () l () }		

◇ きょうの 学しゆうを ふりかえりましょう。

◎できた ○だいたいできた

△もう少し

出てきた人ぶつを 書きぬいたり 場めん分けをしたりすることが できましたか。

◎ ○ △

【分かったこと・できたこと】

--

二年)

めあて

やくわり読みをしながら、がまくんとかえるくんの気持ちを考えよう。

◇人ぶつの気持ちかわかる文ししょうをぬき出し、気持ちを考えましょう。

人ぶつ	本文	気持ち

◇きょうの 学しゆうを ふりかえりましょう。

◎できた ○だいたいできた △もう少し

行どうや会話から 人ぶつの気持ち を 考えることが
できましたか。

◎ ○ △

【分かったこと・できたこと】

「お手紙」ワークシート(二の場めん) 4 / 11

二年()

めあて

やくわり読みをしながら、かえるくんとかたつむりの気持ちを考えよう。

◇人ぶつの気持ちがわかる文ししょうをぬき出し、気持ちを考えましょう。

人ぶつ	本文	気持ち

◇きょうの 学しゆうを ふりかえりましょう。

◎できた ○だいたいできた △もう少し

行どうや会話から 人ぶつの気持ち を 考えることが
できましたか。

◎ ○ △

【分かったこと・できたこと】

二年)

めあて

やくわり読みをしながら、がまくんとかえるくん気持ちを考えよう。

◇人ぶつの気持ちかわかる文ししょうをぬき出し、気持ちを考えましょう。

人ぶつ	本文	気持ち

◇きょうの 学しゆうを ふりかえりましょう。

◎できた ○だいたいできた △もう少し

行どうや会話から 人ぶつの気持ちを 考えることが
できましたか。

◎ ○ △

【分かったこと・できたこと】

二年)

めあて

やくわり読みをしながら、がまくんとかえるくんの気もちを考えよう。

◇人ぶつの気もちがわかる文ししょうをぬき出し、気もちを考えましょう。

人ぶつ	本文	気もち

◇きょうの 学しゆうを ふりかえりましょう。

◎できた ○だいたいできた

△もう少し

行どうや会話から 人ぶつの気もちを 考えることが
できましたか。

◎

○

△

【分かったこと・できたこと】

「お手紙」ワークシート(四の場めん) 7 / 11

二年)

めあて

やくわり読みをしながら、がまくんとかえるくんの気持ちを考えよう。

◇人ぶつの気持ちがわかる文ししょうをぬき出し、気持ちを考えましょう。

人ぶつ	本文	気持ち

◇きょうの 学しゆうを ふりかえりましょう。

◎できた ○だいたいできた △もう少し

行どうや会話から 人ぶつの気持ち を 考えることが
できましたか。

◎
○
△

【分かったこと・できたこと】

「お手紙」ワークシート

8 / 11

10 / 11

(音読げきはっぴょう会のすすめ方)

(二年)

◇ やくわり

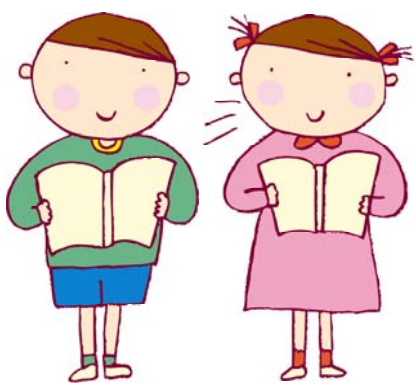
- 一の場めん ()
- 二の場めん ()
- 三の場めん前半 ()
- 三の場めん後半 ()
- 四の場めん ()

◇ はっぴょう会のながれ

音読げきのはっぴょう (10分)

ほめほめカードに書く (2分)

ほめほめタイム(いいところみつけ) (3分)



◇ きょうの 学しゅうを ふりかえりましょう。

◎できた ○だいたいできた

△もう少し

8 / 11 めあて

学しゅう計画ひょうを作るために、すすんで考えることが できましたか。

【分かったこと・できたこと】

◎ ○ △

9 / 11 めあて

「なりきり音読げきはっぴょう会」で、れんしゅうしてきたことを活かして音読したり、友だちの音読のいいところをみつけたりすることが できましたか。

【分かったこと・できたこと】

◎ ○ △

10 / 11 めあて

「なりきり音読げきはっぴょう会」で、れんしゅうしてきたことを活かして音読したり、友だちの音読のいいところをみつけたりすることが できましたか。

【分かったこと・できたこと】

◎ ○ △

二年()

めあて

やくわり読みをしながら、がまくんとかえるくんの気持ちを考えよう。

◇人ぶつの気持ちかわかる文しようをぬき出し、気持ちを考えましょう。

人ぶつ	本文	気持ち
かえる	「どうしたんだい、がまがえるくん。きみ、かなしそうだね。」	がまがえるくん、なんかいやなことあったのかな。
がま	「今、一日のうちのかなしい時なんだ。つまり、お手をまつ時間なんだ。そうになると、いつもぼく、とてもふしあわせな気持ちになるんだよ。」	いつも、こんなときがあって、いやだよ。どくらいいお手紙きたらいいな。
かえる	ふたりとも、かなしい気分。で、げんかんの前にこしを下ろして、いました。	がまくんだい、じょうぶかな。

◇きょうの 学しゆうを ふりかえりましょう。

◎できた ○だいたいできた △もう少し

行どうや会話から 人ぶつの気持ち を 考えることが
できましたか。

◎ ○ △

「分かったこと・できたこと」
このばめんは、がまくんはかなしい気持ちなんだとおも
いました。

がまくんは、げんかんの前に すわっていました。

かえるくんがやって来て、言いました。

「どうしたんだい、がまがえるくん。きみ、かなしそうだね。」

「うん、そうなんだ。」

がまくんが言いました。

「今、一日のうちの かなしい時なんだ。つまり、お手紙をまつ時間なんだ。そうなる
と、いつもぼく、とても ふしあわせな気もちに なるんだよ。」

「そりゃ、どういうわけ。」

かえるくんがたずねました。

「だって、ぼく、お手紙もらったこと ないんだもの。」

がまくんが言いました。

「いちどもかい。」

かえるくんがたずねました。

「ああ。いちども。」

がまくんが言いました。

「だれも、ぼくに お手紙なんかくれたことがないんだ。毎日、ぼくのゆうびんうけは、
空っぽさ。お手紙を まっているときに かなしいのは、そのためなのさ。」

ふたりとも、かなしい気分で、げんかんの前に こしを下ろして いました。

すると、かえるくんが言いました。

「ぼく、もう 家へ帰らなくちゃ、がまくん。しなくちゃいけない ことが、あるんだ。」

かえるくんは、大いそぎで 家へ帰りました。えんぴつと紙を見つけました。紙に何か書きました。紙をふうとうに入れました。ふうとうに こう書きました。

「がまがえるくんへ」

かえるくんは、家からとび出しました。知り合いのかたつむりくんに会いました。

「かたつむりくん。」

かえるくんが言いました。

「おねがいでけど、このお手紙を がまくんの家へ もって行って、ゆうびんうけに入れてきてくれないかい。」

「まかせてくれよ。」

かたつむりくんが言いました。

「すぐやるぜ。」

それから、かえるくんは、がまくんの家へもどりました。

「お手紙」 台本(三の場めん前半) 二年)

がまくんは、ベッドで お昼ねをしていました。

「がまくん。」

かえるくんが言いました。

「きみ、おきてき、お手紙が来るのを、もうちょっと まってみたらいいと思うな。」

「いやだよ。」

がまくんが言いました。

「ぼく、もう まっているの、あきあきしたよ。」

かえるくんは、まどからゆうびんうけを見ました。

かたつむりくんは、まだやってきません。

「がまくん。」

かえるくんが言いました。

「ひょっとして、だれかが、きみにお手紙を くれるかもしれないだろう。」

「そんなこと、あるものかい。」

がまくんが言いました。

「ぼくに お手紙をくれる人なんて、いるとは思えないよ。」

かえるくんは、まどから のぞきました。

かたつむりくんは、まだ やって来ません。

「でもね、がまくん。」

かえるくんが言いました。

「きょうは、だれかが、きみに お手紙 くれるかもしれないよ。」

「ばからしいこと、言うなよ。」

がまくんが言いました。

「今まで、だれも、お手紙くれなかったんだぜ。きょうだって同じだろうよ。」

かえるくんは、まどから のぞきました。

かたつむりくんは、まだ やって来ません。

「お手紙」 台本（三の場めん後半） 二年（

「かえるくん、どうして、きみ、ずっと まどの外を見ているの。」

がまくんがたずねました。

「だって、今、ぼく、お手紙をまっているんだもの。」

かえるくんが言いました。

「でも、来やしないよ。」

がまくんが言いました。

「きっと来るよ。」

かえるくんが言いました。

「だって、ぼくが、きみにお手紙出したんだもの。」

「きみが。」

がまくんが言いました。

「お手紙に、なんて書いたの。」

かえるくんが言いました。

「ぼくは、こう書いたんだ。」

『親愛なる がまがえるくん。ぼくは、きみが ぼくの親友であることを、うれしく
思っています。きみの親友、かえる。』

「ああ。」

がまくんが言いました。

「とても いいお手紙だ。」

それから、ふたりは、げんかんに出て、お手紙が来るのを まっていました。

ふたりとも、とても しあわせな気もちで、そこにすわっていました。

長いこと まっていました。

「お手紙」台本(四の場めん)

二年)

(

四日たって、かたつむりくんが、がまくんの家につきました。

そして、かえるくんからのお手紙を、がまくんに わたしました。

お手紙をもらって、がまくんは、とても よろこびました。

がまくんは、げんかんの前に すわっていました。

かえるくんがやって来て、言いました。

心はいそがしに

か どうしたんだい、がまがえるくん。きみ、かなしそうだね。」

心 くらいかんじで

がま 「うん、そうなんだ。」

がまくんが言いました。

心 今、一日のうちの

がま 「今、一日のうちの かなしい時なんだ。つまり、お手紙をまつ時間なんだ。そうなる

心 とき

と、いつもぼく、とても ふしあわせな気持ちに なるんだよ。」

か 「そりゃ、どういうわけ。」

かえるくんがたずねました。

心 ぼくはさういふこと

がま 「だって、ぼく、お手紙もらったこと ないんだもの。」

がまくんが言いました。

か 「いちどもかい。」

かえるくんがたずねました。

心 My name

がま 「ああ。いちども。」

がまくんが言いました。

心 ちゃんとお返したまうに

がま 「だれも、ぼくに お手紙なんかくれたことがないんだ。毎日、ぼくのゆうびんうけは、

心 もんくをいっしょに

空っぽさ。お手紙を まっているときに かなしいのは、そのためなのさ。」

ふたりとも、かなしい気分で、げんかんの前に こしを下ろして いました。

すると、かえるくんが言いました。

か 「ぼく、もう 家へ帰らなくちゃ、がまくん。しなくちゃいけない ことが、あるんだ。」